常磐毎日新聞

日刊

發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
電話 六三〇番

一月三十一日夕刊

大氣豫報
今晩は北西風
晴一時曇
明日も北西の
晴たり曇たり

# 片や水ッポイ酒に
## 片や甘くないお菓子
## 昨今著しい砂糖飢饉から
## 餅菓子屋さんは大打撃

水つぽい酒に次いで今度は甘くない〝甘いお菓子〟の出現……平地方は昨今著しい砂糖の飢饉から餅菓子屋さんは大打撃を受け甘いお菓子の製造に四苦八苦してゐるが砂糖の配給はガソリン同様嚴しい制限？を受けてゐるので滿足な買入れは容易でない事から止むなく甘くない〝甘い菓子〟の製造に着手して居り、之が爲めお饅頭や羊羹などは甘みが半減され、中には製造を中止して〝品切れ〟の一點張りで客を斷つてゐるなど全く甘黨恐怖時代を現出してゐる

# 林産物檢査所
## 近く四軒町に

平市役所内にある

林産物檢査所平支所は平市をはじめ關係町村及び各團体の協力で近く市内四軒町二三ノ三（磐炭所有地）に新築されることになつたが總工費は工事費一萬六百圓、設備費一千圓、雜費五百圓の合計一萬二千圓、建物は木造本屋二階建一棟及び宿直室、倉庫各一棟で坪數は二百九坪四合である

## 叶多曹長遺骨歸る

既報好間村出身叶多芳衛曹長は昨年十月十三日湖北省京山縣新街附近の戰闘で名譽の戰死を遂げられたが遺骨は明一日平驛零時四十三分着で無言の凱旋をする

## 大浦村信組

大浦村信用組合はこの程總會を開き理事に根本眞吾氏を監事に片寄左京氏を各補選、大野村信用組合も同様理事に吉田部廣氏、監事に鈴木明氏を補選した

# 藤原川を境ひに大發展の小名濱
## 大幹線道路を新設
## 都計委員會で決定

小名濱町の道路網は三十日縣廳において開かれた都市計畫委員會でいよ／＼正式に決定されたが同町では明年度において日曹工場前から商港に至る海岸通りで幅員十五米に及ぶ大幹線道路を新設これを中心に北へ本通りと連絡する七米以上十米の幅員を有する數本の道路が設ける筈でこれが完成の曉は小名濱町の西部は藤原川を境として大發展を來すことになつた

# 地方切ての豪商が統制違反

地方切つての豪商であり三府縣を股に暴利を貪つてゐた惡德振りには係官も呆れてゐるといふ

小野新町大字谷津作字次郎五一呉服商松本美男（四〇）は東京市日本橋區堀留町丁吟商店から仕入れた公定價格一反一圓六十五錢のスフ晒及び同一円五十三錢の手拭、同一円九十五錢のオールスフ瓣物裏地を平市南町鈴木染物工場へ仕入れ額より三十錢乃至五十錢、公定價格より二十五錢乃至三十五錢高位に賣却したこと發覺この程小野新町署に檢擧された旨今三十一日平署に通知あつたが同人は

# 日本軍人の「強味は此處」
## 上田軍醫が語る

平市南町出身外科醫上田耕作氏は軍醫少尉として應召〇〇病院に軍務精勵中突如歸還の恩命に接し昨日二年半振りで故山の土を踏んだ氏は南町の自宅で元氣に語る

病氣の爲め内地に戻つた者の内でさへ　天皇陛下の萬歳を三唱して死んだ者が何人かあつた、私は是れを耳にして實に大きな感激に打たれた、此處に日本軍人の強味があると思ふ戰ひは決して一朝一夕には果てない、今日は銃後に在つて大いに努むる積りで居るが歸つたばかりで未だ本當に平市に馴染めないので暫らく此儘で居て機を見て從前通り開業する積りだ

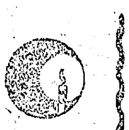
## 磐中の射撃會

磐中では二月三日午前九時から午後四時迄神谷村東部聯合分會射撃場で射撃會を催すと

## 内郷警防團長

内郷村警防團長沼田留三氏はこの程退職され後任には佐藤三平氏が任命された

### 探偵實話
# 桃色の燐寸（九）



平警察署　喜久地寒

豫定通り福島に着いてそれ以來引續き爺さんを調べたが相變らず知らなあものあ知らなあいと申上る外ありませんやと口をもぐ／＼させながらニヤ／＼笑つてばかりゐる。

今日は取調べの方法を換へてみた。

「爺さん、お前の女なか／＼親切だね。煙草にマッチは行けや出すことになつてゐるんだね」

「ヘヘイ、煙草にマッチ位出さなけいならない義理があるんでさあ」

「さうかいお、安くない仲だね、時に爺さん此處に一本のマッチがある。このマッチは先に桃色の燐が付いてゐるんだ。この桃色のマッチと同じマッチが其處に積んであるマッチの中にあるかどうか調べてくれないか」

さう言つて豫て集めて置いた二百余ケの廣告マッチを爺さんの前に差出した。

「同じ色のマッチを見つけりやいゝんだね」

「そうだ、見付かつたら長い間御苦勞だつたが爺さんに歸つてもろうよ」

「戯談でせう」

さう云ひながら一個づゝ對照してゐたが、一時間程すぎた頃

「旦那同じマッチはありませんよ」

「そうか、それではこの間お前が女から貰つて來たマッチを僕が預つてゐた、これと合してみて呉れんか」

「旦那これあ同じ桃色ですね」

「違つてはおらんかね」

「同じものでよ」

「時に爺さん、實はお前が手に持つてゐる桃色のマッチは、破られた藏の中に間抜けた泥棒の野郎が落して行つたマッチだ。それから此處にある二百余ケのマッチはこの附近の店で出してゐる廣告マッチを全部集めて置いたものだ。そのマッチの中には桃色のマッチは一個もないが、お前の女の處で出してゐる廣告マッチが同じものだといふことになると爺さんどんなことになるかね」

煙草の煙を天井に向けて吹出しながら、爺さんの脈をみてゐた。

# 上遠野村罹災民
## 救濟に縣が乘り出す
## 差當り炊出し

昨報、上遠野村の大火に際し縣警防課より高村警部補、社會課より上遠野屬が急遽現場へ出張罹災狀況調査に當つたが、社會課では差當り罹災救護法に基き十日間の炊出しをなした外男一日四合、女同三合の白米及び副食物を三十日間給與、更に一人四圓以内の被服及び同八圓以内の寢具を與へまた小屋掛費は一世帶二十五圓以内、避難所費は實費を給與就業資金及び燒失器具に對しては一世帶二十圓を、また學童に對しては一人二圓以内の學用品を與へることゝなつた

## 起債調査
### 小名濱町に

小名濱町では共同墓地並に道路新設費を簡易保險局より借入れることになり三十日仙臺簡易保險支局地方課長小高事務官、藤田書記等が來町調査した

# 〝流感現る〟
## 保健所が躍起
### 雨なき空への長期戰

三十年ぶりの旱天で地方民を恐怖のドン底に陷れてゐる折も折、保健所へ各地方に流感現るの報が舞ひ込み周章狼狽させてゐる、四、五歳から七、八歳位の小兒若干で蔓延の恐れなしとはあるが、ヂフテリヤ患者が多數現れて神經をとがらせてゐる折柄として油斷は出來ない、旱魃に附隨して街も村も黄塵萬丈結膜炎、扁桃腺、或は生命を左右する肺炎患者が相當に發生したので保健所ではヂフテリヤには豫防注射、感冒豫防には含嗽勵行、マスクの使用等を促して感冒防止に拍車をかけ雨なき空に向つて長期戰を演ずることになつた

## 通學園寄附　玉川

玉川村小學校島通學園は六圓住吉、野通學園は各三圓合計十二圓を忠靈顯彰資金としてこの程寄附したこの金は兒童達が冬季休業中同村學務委員村上重一氏から無償交附された磨砂を賣つた利益金と豁の頬刺しをなした益金である

# 赤井日曹燒く
## 損害二三萬圓
### 竈の火の不始末か

今朝六時半頃日曹赤井窯業所から發火、工場二棟事務所、倉庫等計四棟を燒拂つた上附近の民家二戸一棟を全燒八時過ぎ鎮火した、原因は目下平署で取調べ中だがカマドの火の不始末らしく損害は二、三萬圓に達する見込みである

小名濱支局通信

# 植田役場に古川町長を訪ふ

支局長　小野務平

▽町長の圓滿外交に助役の不愛想外交▽（下）

植田も小名濱築港があるので多少の經驗はあるが決して樂でない様な氣がする、果して小名濱町が要求する工費を國が出し得るかどうかが疑問で是れが爲めに旣設計畫が水泡に歸する樣では何にもならぬ、其點小野君に同情して居る。

と友情からと同じ町長としての立場からと共御互ひ懷く經論の實現に同情し合ふ點などは他の企及し得ない信愛美の發露とも見らる、最後の切札として古川町長は總て町長たり村長たるものは自町村民をして安神立命の方針に終始する哲理を考究せねばならぬ植田町の如きは比較的強靭な財政の立て方を取つて進むで居ると云ふ結論に到達したのであつた。

この話しを聞いた時に記者は私言として古川町長に述べて見た、爲政家の取るべき方針は一も二もくらべ成功しようとする事に失敗がある、一の事業を方付けた後に亦次の事業をと云ふ段階が必要だと思ふ、小名濱町の場合に見てもそうだ、築港と平小鐵道と對立し、商港と漁港と對立して來て居るが今の處商港が中途半端で物にならず、鐵道は無期延期同樣、漁港する商港に禍されて遭難港の惡罵さへ受けて居る海の表玄關たる魚市場の豪奢な構へも此儘では無用の長物と化するかも知れないとさへ心痛するものもある。

こう觀し來たると古川町長の施設は安全圏内であるかも知れぬ、然し玆には又植田は勢力伯仲に在る爲めに牽制があり小名濱町はこの牽制から脱却して無軌道でもどうにか行けそうな相違があるから共行き方に於て全く雲壤の差ある事を認めずばなるまい、何れにしても町長としては小名濱町から見て百倍も千倍も骨を折れる事勿論であるか共勞苦を屁の河童とも思はす圓滿外交によつて貧乏揺ぎもせずに二期三期と町長の揃ふに代る所以のものは矢張り古川氏は植田町の人統領として無くてならない人材である事に敬意を表し、再會を約して引き下つたのであつた。（完）

# 雨は無くとも
# 麥は育つ
## 心配よりも研究が第一

六十五年目の旱天で石城地方は井戸水に不足を來し場所によつては飲料水を貰ひ水をしてゐるといふ騷ぎで大小麥も枯死するのではないかと危ぶまれてゐるが右につき郡農會では左の如く語つてゐる

大小麥や甘藷は雨が全然降らなくと心配はない、今年は冬旱で困つてゐるといふけれど世界一の麥の生産地米國やカナダは麥を蒔いてから二回か三回しか雨は降らぬのであるから日本でもこの點は研究してこんな年こそ大豐作をみるやう努力して欲しい

## 四倉町信組

既報四倉町信用組合の總會はこの程開催配當は四分に決定されたが役員は左の如く再選された

〈監事〉金成岩吉、佐藤仲、片寄留松〈信用評定委員〉田中岩次郎外二十三名

## 平市人事

〇出生

△一町目八幡田清氏長女操さん

△三町目三四箱崎孝氏三女マサヱさん

〇婚姻

△大町一〇眞部勇吉氏（二〇）と相馬郡石神村字中川原一一八紺野キヨ子さん（二三）

男女工數名募集
常磐毎日印刷株式會社
平市長橋町【電話六三〇番】

# ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間（錄音と解說）一月中の出來事

▼後七、三〇　國民歌謠

▼後八、〇〇　朗讀（京城より）志願兵の戰死

▼後八、一五　浪花節「さめざめ街道」廣澤虎造

▼後八、五〇　倶樂部、西宮リキ他

▼後九、〇〇　連續小說「石狩川」本庄陸男作　汐見洋外

明日の部

▼前九、四五　幼兒の時間　オハナシ「ケフハ一ノ日」平野蔀子

▼前一〇、〇〇　衛生メモ

▼前一〇、二〇　家庭の時間

▼後〇、〇五　吹奏樂　陸軍戸山學校軍樂隊

▼後三、〇〇　婦人の時間

▼後三、三〇　敎師の時間「時局と敎育」大浦英

▼後六、〇〇　童話劇「興亞の歌」仙臺市北五番丁高等小學校兒童

▼後七、三〇　國民歌謠

▼後七、四〇　琵琶「つるぎ」伊藤松雄

▼後八、〇〇　十分間演藝「ほがらか日記」「小さな力士」小泉忠、中村めい子、若杉富士男

▼後八、三〇　時局談話「現下の石炭問題」燃料局長官東榮二

▼後九、〇〇　連續ラヂオ小說「石狩川」本庄陸男

# 園藝競技
## 平第四校に

平市農會の園藝競技會は今三十一日午後一時から第四小學校で開催された

## 靜岡へ寄附　平市

平市鍛冶町吉田屋呉服店の店員一同は靜岡大火の見舞金として各自小遣錢を出し合つて金十圓を贈つた

## 靜岡義捐金　神谷

神谷村の佛敎和光會では金五圓、四倉小學校では金二十一圓八十七錢いづれも靜岡市大火の義捐金としてこの程送つた

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
内科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科
平市田町　電話五一三番
——◎看護婦至急募集——

カメラと用品
現像引受
お用命は
西村屋藥局寫眞部
電・2 平

# 歸郷御挨拶

謹啓　時下嚴寒之候益御清適ノ段奉賀候
陳者小生今事變頭初應召以來〇〇陸軍病院外科勤務中ハ公私共多大ナル御高配ヲ賜リ大過ナキヲ得常ニ感謝仕居候
今般不圖モ召集解除ト相成歸郷仕候就イテハ今後銃後ニアリ一層勉勵仕心組ニ御座候間何卒倍舊ノ御鞭韃ヲ賜リ度玆ニ謹ミテ御挨拶迄如斯御座候　敬具

昭和十五年一月三十日

平市南町卅一番地
上田耕作
電話一二九番

---

# 戰國間諜傳
大井沢一龍作
山科一郎画

第百六十八回

## 助命願（一）

[illegible]内にある北町奉行所、奉行は島田利政と云ふ人。其の北町奉行所へ駈込み訴へをした一人の女性。小役人が出て見れば、顔は陽に焼けて、見すぼらしい風をしてゐるが、何處かキリツとした犯し難い氣品のある年頃廿を過ぎた許りの美しい女

「こりや／＼、貴様は何者だッ」

待つてゐた[illegible]で荒々しく小突いた。

「御願ひの筋があつて參りました、どうぞ御奉行様に御目通りさせて下さりませ」

女はしきりに頼んでゐる。

「何にッ御奉行様に會ひたい、何用で參つた。用があるならば此處にて申してみよ」

「いえ、御奉行様直々に御目通りいたさねば申上げられませぬ、どうぞ御[illegible]下さりませ」

女は必死の色を顔にあらわしてゐた。

「直々でなければ云はぬと、生意氣を申すな用によつては會はせぬものでもないが、先づ其の方の姓名と所を申せ」

「ハイ、それも、御奉行様に申上げまする。早う御取り次を頼みますぞへ」

小役人はお互に顔を見合せて、どうせうかと云ふやうな顔をした。

「早う、何うしたのぢや、重大なことを申上げるのぢや、取次いでたも」

くす／＼してゐるので[illegible]が[illegible]を起したが、ついうつかり、今までの御仕妙な女言葉から、とつぜん御殿言葉で叱りつけるやうに急ぎ立てた。驚いたのは小役人たち。この見すぼらしい女が、武士の娘の様な言葉を吐いて重大なことを申上げるのだと云ふ。其處で奉行のところへ飛んで行つて、この事を傳へた。

「こちらへ通せ」

と云ふ命令で女の方へ案内されると奉行所に奉行島田利政が控へてゐて

「こりや女、何用で參つた。わしが奉行島田利政ぢや」

「何を御かくし申上げませう。妾ことは、御尋ねの眞田[illegible]と云ふものにござります」

それを聞くよりサツと顔色をかへた奉行

「何にッ眞田[illegible]とよな、まこと汝は眞田左衛門佐幸村の娘[illegible]と申すなるかッ、者ども早うこの女に繩打てッ」

下知に答へてバラ／＼とかけ寄つて來た。

[illegible]はヒラリと體をかわして

「待ちや、お待ちあれ、斯くは自ら名乘つて出たからには繩打たずとも逃げも隱れも致さぬ」

そう云つて此の奉行の方に向ひ

「それについて御願ひの筋あつて一罷り越しました。森忠五郎、ま[illegible]大谷助、それに[illegible]人の[illegible]人が、妾のために捕へられ囚ります由、彼の三人には聊かの科もござりませぬ。總て妾一人のなせる仕業、罪あるものは妾一人、さらば無實の罪に苦しめられてゐる三人を速かに御放免下さりますやう。斯くは名乘つて出た次第でござりまする。何卒御聽許通り妾に御仕置なし下さりまする様、御願ひいたしまする」

御前に手をついて頭を下げた。

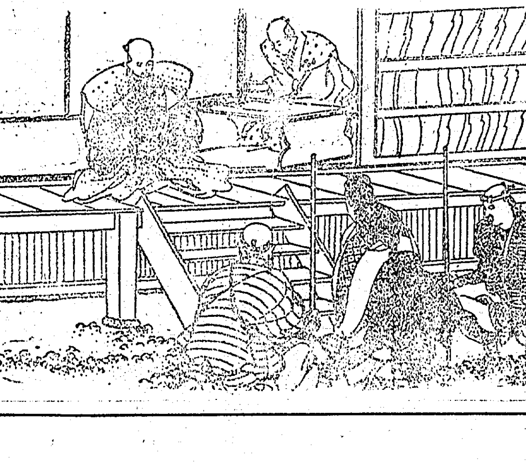
この健氣なる態度に、奉行島田利政も感に打たれて、彼女を一時女牢に下げて、早速奉行所與力等主だつ[illegible]と立會の上四人を白州に呼び出して對決の試を行ふこととなつた

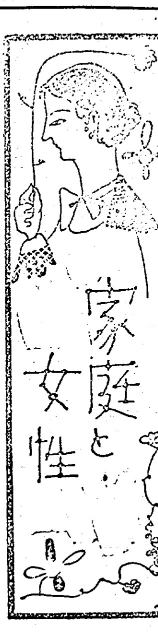
それを[illegible]へ聞いた[illegible]は、北町奉行島田利政の方へ

「眞田左衛門佐が娘[illegible]が捕へられた由、彼の者は、[illegible]の[illegible]を牢に入れてありしに破牢を企てゝ逃亡致せし者なれば、早々引渡しを願ひたし」

と[illegible]から申込んで來た。

「彼女は天下の罪人、本人自ら名乘つて出たからには、天下の罪人を審ぶる奉行所に於て、裁斷致すべきもの。私一存にはなり難し、[illegible]より御沙汰あれば格別なれど」

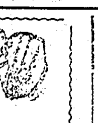




・・小ばなし・・

借金で首が廻らないといふ男、暦と睨めっこで

「暦なんてよほど氣のきかない奴がこしらへたものと見える、二月を卅日にすれば大晦日がなしで濟んだものを……」



## 特殊兒童の作品

瑠非

今日普通の小學校へ行く子供の中にも、レベル以下の智能しかもたない兒童が、私たちの想像以上の數に上るのではなからうか。

しかも小學校ではそれらの兒童が、普通生と一つ學級の中で、あれもこれも同じだけの學課を課せられてゐる。その結果は何一つ完全に頭に入らず、それらの多少とも精神的に（肉體的にも）缺陷のある子供たちは、遂には人々の抑壓や嘲笑の中に身をさらすことゝなる。

又中には失望して兒兒を捨猫のやうになげやりにする親までが出てくる。

さうした子供の中でも最も不幸な環境と條件から救助され、あらゆる境遇から隔離されて特殊な教育を受けてゐる八幡學園の兒童の作品展覧會が開かれた。

その鋭い色感、驚くべき[illegible]かな多くの作品に接してこれが頭のにぶい子の作品であらうかと人々を驚目させ、さまざまの驚嘆の聲をあげさせてゐる。

直接には何等の指導もなく白痴の子供が大人の到底及ばない作品を創り出したといふ不思議な事實はもとより、もつと大きな問題は社會からも家庭からさへも締め出しをくつたこれら白痴の子供を守り育て、それぞれ持前のものを引出し得る環境に置くことによつて、どうかすれば見出されずに終るかも知れなかつた才能を生かし得たことの證據である。

今日あまりにも少いこの種の施設の擴充こそは、不幸な子ども達だけでなく、特殊兒童をもつ家庭を、ひいては社會をどれほど明るくすることになるであらうか。

---

# 貫祿と命の取替え

## 肥りたがる殿方と痩せたがる御婦人

## 危い人情の不合理

人間といふものは不思議なもので、女は大抵痩せたがつてゐるのに、男は肥りたがつてゐる、月給取りでもそろ〱課長位になると肥りたがり、痩せてゐたのでは[illegible]せん。しかしでつぷり肥つて貫祿にかまへ悠々大笑するのが重役タイプのやうに云はれたのは既に古い話です。肥滿の人は一般に頭の働きがにぶく、疲勞しやすい方で頭のさへた精力絶倫長命の人には痩せた人が多いのです

○生命保險の統計でみても、肥つた人に長壽者は少いし、長生の人は中肉中背の人に多く、痩せ型の人の方が總體的にみて長命です。四十歳をすぎて肥滿したのは心臟を害されやすいし、血壓が高く腦溢血をおこしやすい。しかし三十歳位までは反對であつた、痩せた者より肥つたもの〻方が死亡率がずつと少いのであつて、青春時代にやせてゐる人は抵抗力が弱くて肺結核や腸結核に冒されやすいからです。それ故に青年時代には、若いうちは肥つてて、四十を越へたらやせるといふ[illegible]

もこゝで注意したいのは、ふとつたやせたといつても、人によつてその標準があいまいであつて、年ごろの娘さんなどはふとりすぎて困ると思つてゐるのに（自分では）[illegible]たしも[illegible]ます。[illegible]は、身長から百を引いた殘りがその人の（理想の體重）となるのであつて、たとへば、身長百六十五センチの人では六十五キロであるのが標準だとされてゐます。またその人の身長に胸圍をのけてこれを二百四十でわつた數を標準體重とする人もゐますが、ふとりすぎややせすぎを氣にしてゐる人は身長と體重をはかつて、この標準に合ふかどうかを調べてみるとよいでせう。この標準からかけ離れてゐるのはきつと身體のどこかに故障がある證據です

○肥りすぎの人は贅澤な食事の割に勞働が少いから、適當の運動をする外、肉食を節減し、調理にも脂肪類をさけること、動物性の油、たとへばヘツド、ラード、バターの類からゴマ、落花生、ヤシの油まで出來るだけさけるやうにします、またアルコール類にビールは肥滿の原因となりますから、止めた方がよい

○やせた人は　どうするか、二十でやせたのは結核を警戒しなければなりません。やせた人にはおしやべりは最も禁物で、夫婦仲でもあまりむつまじすぎるとふとりません。入院すれば[illegible]させて、その間に牛乳をやる。一度にどつと飲むのではなく少しづつちびりちびりのませる。この要領でやれば、きつと短時日の間にふとります。一度に[illegible]を喰ふ人はふとりません。食物では脂肪をとること、めん類もふとります。

---

## 桐下駄

### 買ひ方上手

桐下駄の柾目は、眞すぐにそろつてゐて十五六本から二十本位あるのが上等とされてゐます。そしてそれより數が多くなるにつれて極上品になり、數が少くなるにつれてだん〱品がおちるのです。然し、柾は通つてゐても水のよく枯れてゐないものは、やわらかで早く減つてしまひますから下駄を二つ合せてたゝいて見て澄んだ金屬性の音のするよく枯れたものをえらぶことが肝要です。

柾目の前後に通つた下駄は、見ては體裁がよいが、少し減つてくるととかく割れ勝ちですから實用向の下駄は、柾目が少し曲り加減で、小口から見て、木目が斜になつてゐるのが、なかなか割れなくて永もちします。

この頃は婦人ものゝ[illegible]下駄には、張り柾といつて、柾目のうすい桐を貼りつけたものがありますが、お値段も相當で[illegible]類もよろしい。

---

## ■變つたお餅の食べ方■

# 薄墨色の人氣者

## 美味もまづいも

## 奥様の腕次第

おもちは白いものと昔から云へられて來ましたが、戰時體制下の十五年の春を迎ぐおもちは、遂に七分搗米の戰へを白紙に返して七分搗の薄墨色が誕生と決定しましたこの新しい人氣者をどうおいしくいたゞくか、それは主婦の腕次第で、おいしくたべたもち肌で主人の御機嫌を上げさせるか、又は一に奥さんの努めでせうそこでこれから、いろ〱かわつたおもちのたべかたご紹介いたしませう。

**おからを搗込んだお餅**　まづおからを一升におからを二合用意します。東京のおからはあらいからこれをすりつぶして蒸ごしにかけます。餅にふかして普通のおもちのやうに搗きます。搗上つたら、更ごしをしたおからをまぜてまた搗きます。このおからは[illegible]なんなく搗きまぜます。このおからの纖維は腸にもたれず[illegible]られ、やわらかく、[illegible]といふ點です。たべ方は[illegible]おもちのやうに燒いてよ[illegible]さう搗によし。ただ少量のおもちより早くかびるといふ缺點がありますから、あまり大量につかぬ方が經濟です。

**[illegible]のおろし和へ**　まづおもちを搗いて細い湯につけやわらかくしておきます。大根の辛くないところをすり下して醋油と調味料をつけ、車エビをゆでからをむいてみぢんにきざみます。これをおろしにまぜ、ゆずがあつたらゆずの皮をやはりみぢんにきざんでまぜ、やわらかくしておいたもちの上にのせて供じます。

**おもちのゆず味噌**　これはゆず味噌の作り方もちの上に塗つていただきます。ゆず味噌の作り方は白味噌に砂糖を加へ弱火で[illegible]少しおろしてまぜます。かくしてできたゆずみそを搗もちにのり、醬油にのりを輕く燒いて供しますとおいしいものができます。

---

## 七分搗殘り飯

# 調理法

## 臭味もなく美味しい

殘つたご飯をよく洗つてごはん茶碗一杯に水をその三杯位入れ、ぐつぐつ煮ますとねばりが出ておかゆのやうになります。これに牛乳三勺、砂糖小さじ二杯を加へてもう少し煮ますと、オートミールそつくりのものができ上ります。朝食向きの軽いお料理で、この分量は一人前たつぷりあります。牛乳のかわりにサツマイモを入れて芋がゆにしてもおいしいものです。

**トマトご飯**　ごはんはやはり洗つてからバタでいため、トマトケチヤツプを少し加へ鹽、コセウで味つけすれば、お子さまなどに喜ばれる色つけごはんになります。

豚肉をすこしと前夜から水につけた大豆をすり鉢ですつてごはんと一しよに入れていためます。これにほうれん草のおひたしか、リンゴと[illegible]理になります。

**乾飯料理**　一度洗つたごはんをざるに上げてカラカラに乾燥を作ります。この乾飯は白米同樣にいつてあられにしたりお砂糖でかためておこしなどをつくつてもよろしいのですが、すり鉢で[illegible]なにくだきますと細かい粉のやうになるのでパンコ代りにつけ揚げ物をなさるとパリパリしておいしうございます。色の黒い方やお子さまのためにはほしはんにせず揚つたごはんの水氣を布巾で拭きと[illegible]たしますと

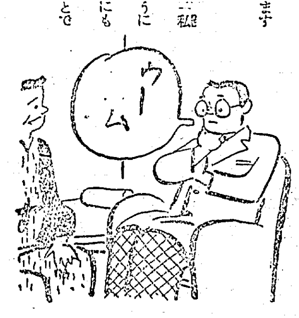
一品料理としてつけるならこれだけでは榮養が足りませんからひき[illegible]へますと、百パーセントの[illegible]

---

### 言はぬが花

議長「診察して病名を判斷することができない場合には、如何なる處置をいたしますか。」

醫學生「私は偉らさうに見せてなにもいはぬことです」



---

# 鍋料理

## 貝類の買ひ方

今節の鍋料理に使ふ貝類はこれからがおいしい時期ですし、値段も一般に安くなつてきますので、その買ひ方をご紹介いたしませう。

**ハマグリ**　本場物は千葉の[illegible]ですが、大阪にでゝくるのは[illegible]內海方面のものです。からがうすくて光澤の強いカラ〱とかき鳴らして音のある響のするものが良品です。むき身でしたら、べつ甲色の縮つてゐるものがよく、身が白つちやけてダラリとしたものは古いものです。値段は大粒一個三錢、中粒一個五厘位ですから、家庭用には小粒の方が經濟です身もやわらかです

**青柳**　ベカがひと云はれてゐるので千葉が本場ですが、瀨戸內海方面のものを瀨戸へ送り、こゝでむいて市場へ出します。新鮮なものほど紅色があざやかでふるいものはホケてゐます。さわつて[illegible]動いてゐるものは[illegible]

---

時局小說

# 驀進

（禁上演映畫化）

士別[illegible]樹　北野傳畫

### 第六十四回　青年（四）

なる程人相の好くない青年が二人、浩と由紀子をジロ〱みながら、歩いてゐた

「ぢやお送りしませう」

浩と由紀子が、街の方へ[illegible]うとした時、バタ〱と足音が追付いて來た

「ちよつとお待ち願へませんか」

由紀子は、はずみに振り返つて、その聲を[illegible]つた。浩はゆつくりと振り返りながら

「何か[illegible]ですか」

「二中君のお[illegible]さんにお聞きしたいことがあるのでございますが、お暇は取らせません」

[illegible]調子に元氣付いた

由紀子は

「わたしに聞きたいことつて？」

「それがその、一寸此處では具合の惡いんで、お耳をちよつと」

相手の男は、素早く彼女の傍に寄つたと思ふといきなりグッと腕を摑んだ。

「お前さんに用事があつて來てるんだぜ、俺達、[illegible]、エンコの者だがね、おいお嬢さん、一寸引んでゐて貰はうかね」

由紀子は眞ッ青になつて、その腕にしがみついて口も利けなかつた。

「駄目だ」

[illegible]の唸るやうな腕力のある聲がした時、由紀子を摑んでゐた男の腕がポロリと外れ、彼女の體はクルリと浩の後にまはつた。

「ヘツ、しやれた眞似をしやがると、後悔するぜ、手前も一つ穴の狢か。知らねえが、おいお嬢さん、聞きたいといふのは何處へやつたんだい」

「え？　順子、あの人のことなんか知らないわ、お前さん、どうしてあの人のことを」

「何、知らねえ、[illegible]

知らねえといふなら仕方はねえ。お前さんをショッ引いて行くまでだ。おい　この野郎から片付けて了へッ」

今度は彼女の方は見向きもせず、二人でドッと浩に打つてかゝつた。[illegible]浩は由紀子を後にかばつたまゝ、靜かに立つて、[illegible]かつた。

右から飛び掛かつて來る奴の腕をグッと摑んだと思ふが早いかグググッと捩じ上げて、左からくる奴へドタリ叩き付けてしまつた。恐ろしい力だ、二人一ぺんに地面へ叩きのめしてしまつたのだ。[illegible]與太者も、この騷ぎにちよつと[illegible]拔かれたらしいが、起上つた瞬間にはピカリと光つた。

由紀子はハッとして叫んだが、

その瞬間、鋭い金屬の音[illegible]聞こえ、そのきつ先が浩の[illegible]、ほんの少し傷つけてしまつた、赤い血が女の袖を赤く染めてゐるのに氣がつくと彼女は氣が氣でなかつた。

「浩さん血が——」

彼女が夢中で叫ぶと、浩も氣がついたらしく、その赤く染つた左の袖を捲くり上げた。

「よし、やる氣だな、來いッ」

今迄輕くあしらつてゐた浩の顏の上に、サッと殺氣が漲れると、浩はペッと下駄を脫ぎ捨てゝ仁王立に大手を擴げた

「もう許さんぞ、逃げるなッ」

叫ぶが早いか、グッと右拳を突出した[illegible]短刀が風をきつて打下された、だがそれは浩の[illegible]でしかなく、男の[illegible]が折れた瞬間、左の拳がグアンと、その男の顏面を強かに叩きつけてしまつた。男はヨロヨロとよろめいたと思ふと、路上にドタリ倒れて起き上る氣配もなかつた。

もう一人の男は、浩が怒つた聲を發するとその物騷さに、バタバタと逃げ出した、[illegible]をドンドン掛けて行く[illegible]

---

◎診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續槽工科
小兒齒科、槽漏膿科、齒列矯正科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向）
中野齒科醫院
電話五〇九番
院長 日本齒科醫學士 中野[illegible]次
日本齒科醫學士 鹽谷伍郎
補綴主任 佐藤[illegible]義

募集
永續者には將來の保證を致します
ボーイさん
◎堅實は營業方針、サロンのお客は當地樣一流い方々です
◎色々な方に接することが社交儀禮の實際に學び成功の糸口ともなります
調理見習婦人
◎定評あるサロンの調理法を御傳授いたします
◎見習ひとして調理場に御勤務出來る御婦人に限る
◎14歲以上3歲迄の健康な方…
◎3年以上勤續出來る方…
◎親權者若くは本人御來談下さい。……
平市銀座街
電話592
サロン

病室增築、手術室完備
醫學博士
產婦人科 專科
五十嵐雄二
平市新川町 電話三六九番

エタニツトパイプ
鐵管 代用

| | 耐壓封度 | 內經 | 一本ノ長サ | 一本ノ價額 | ギボルト繼手代 |
|---|---|---|---|---|---|
| D級 | 250 | 50ミリ | 3m | 4.72 | 2.90 |
| 〃 | 250 | 75 | 3 | 6.97 | 3.50 |
| B級 | 100 | 100 | 3 | 7.90 | 6.25 |
| 〃 | 100 | 150 | 4 | 17.70 | 9.20 |

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

冬物は
是非！
當店から
（在庫豊富）
玉屋洋品店
平田町通電話六五六番

◎女車掌
（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
平市二丁目
三井タクシー
電六八六番

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

花柳病科 外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士 吉田久雄

「旨い」と一言にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
日本料理
平市仲田町
山茶荘
電五〇二

株◎先高必至
現物の買時
優良株御案內申上げます。
株式日報御申越次第御送付致します。
有價證券賣物問屋
富岡靖介商店
平市四丁目（電話一九一番）

吸入用酸素 99%純度
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
體温計
寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
◎寫眞材料一式販賣致シマス
關內藥局
電話四〇番

一、產婦人科
一、外科一般
一、花柳病科
小名濱町小學校前（元土井醫院跡）
黑澤醫院
醫學士 黑澤廣
電話四五番

喜多流謠曲と仕舞のお稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流 謠曲 仕舞
白土會
平市田町六九
電話一二七番

（夜間診療）
胃腸 性病
內科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）